

らいいプラス

癒やしや生活の張り求め、ペットを飼う高齢者は多い。だが、ペットより先に飼い主が亡くなったり、体力の衰えや入院・施設入所などで飼えなくなったりして、残されたペットが行き場を失う例が増えている。そうならないために飼い主や家族らはどう準備したらいいのだろうか。

神戸市のA氏(81)は愛犬の源(げん)を子犬の頃から大事に育ててきた。だが、数年前からA氏の腰とひざが悪化し、体重が15キロの源を毎日散歩に連れていくことが難しくなった。譲渡先を探したが、源の気性が荒いこともあり、見つけれずに途方に暮れた。そんな時、知ったのが市民団体の日本ドッグホーム協会(千葉県いすみ市)。飼い主が健康上の理由などで飼えなくなった犬と猫を引き取るボランティア団体だ。

最期まで面倒

2007年に源は静岡市にある同協会の飼育施設に引き取られた。「手放す時はつらかったが、協会が最期まで面倒をみてくれるので安心」とA氏は言う。

ドッグホーム協会は01年、ペットサロンを営んでいた白井睦子さんが、亡くなった高齢の飼い主から遺書で、ペットの世話を託されたことがきっかけとなって発足した。今では全国から引き取り依頼が寄せられる。引き取るのは飼い

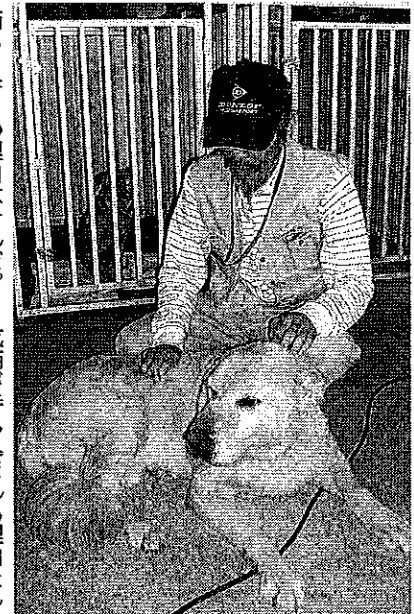
飼い主の死亡や体力の衰え

主が高齢で、病気などのためにやむなく手放さざるを得ない犬・猫に限る。ボランティアで世話をし、運営費は個人の寄付などで賄っている。

愛犬メイを飼っていた愛知県稲沢市のB子さん(73)も協会を利用した。散歩中に転んで腰椎を圧迫骨折したのがきっかけだ。「ペットより先に自分が衰えるなんて考えたこともなかった」とBさんは反省する。

最終的に自治体の動物愛護管理施設に収容され、新しい飼い主が現れなければ殺処分となる。環境省によると09年度、約23万匹が処分された。

ペットの引き取り依頼の理由はさまざま。日本動物福祉協会(東京都品川区)によれば、犬の場合、以前は「引越」が最多だったが、ここ3年は「飼い主が体調不良や入院、死亡した」がトップに



飼い主が高齢のため譲渡された犬たち(静岡市の日本ドッグホーム協会)

高齢者のペット行き場失う

猫も2番目の理由はそれだ。餌や医療技術が進化し、家で飼う小型犬や猫の寿命は20年近くまで長寿化している。同協会の調査員で獣医師の山口千津子さんは「最期まで飼えないかもしれない高齢者は子犬や子猫から育てるべきではない」と忠告する。「どう

しても飼いたいなら、自分が飼えなくなった時の引き取り手を探しておくか、寿命が短い成犬や成猫を飼うべきだ」と話す。

自治体の動物愛護管理施設は殺処分を減らすと、飼い主探しを行う。東京都動物愛護相談センターも定期的に譲渡会を開いているが、成犬や成猫は引き取り手が少ないのが現実。同センターは成犬や

安心して飼育

四日市動物愛護の会(三重県四日市市)は02年から保護した捨て猫を高齢者に譲渡している。もし飼えなくなったときには会が引き取るのが条件だ。これまで年齢を理由に飼うことに二の足を踏んでいた高齢者も、この条件があれば安心。同会の雨沢純子会長

元気なうちに引き取り先を

は「今後も高齢者と猫の橋渡しをしたい」と意気込む。獣医師も立ち上がった。都内の獣医師約10人が昨年、特定非営利活動法人高齢者のペット飼育支援獣医師ネットワーク(VESENA)を設立。高齢者が飼えなくなったペットの飼い主探しを進める。まだ準備段階だが、今後は全国ネットの構築をめざす。

ただ、こうした団体はまだ少数。受け皿が乏しい現状では、自分が病気や認知症になる前にペットの世話を誰かに頼むことが必要だ。動物愛護団体との間で、自分の死後に遺産の一部をペットの世話の費用に充てるよう生前契約したり、遺言に託したりする方法もある。今後、単身高齢世帯の増加でペット需要の拡大が予想されるだけに、飼う前や飼っている間に、ペットの行く末を真剣に考えるべきだろう。

飼い主探しを依頼された理由と件数 (2010年度)

犬 93件	
飼い主が体調不良、入院、死亡した	24
引越	13
離婚	11
家族がアレルギー	8
ペット不可住宅で苦情が出た	8
保護	5
問題行動(かむ・ほえる)	4
経済的に飼育できない	4
その他	16

猫 110件	
保護	55
飼い主が体調不良、入院、死亡した	16
家族がアレルギー	8
ペット不可住宅で苦情が出た	7
引越	6
野良猫に餌を与えていた子猫を産んだ	5
飼育していた猫が子猫を産んだ	3
離婚	3
その他	7

(注)日本動物福祉協会まとめ

ペット飼育が高齢者に好影響を与えることがわかってきた。米国の社会学者シゲル氏が65歳以上の高齢者約千人を調べたところ、ストレスを抱える人の年間通院回数は、犬を飼っている人のほうが飼っていない人より1.75回少なかった。毎日の散歩が適度な運動になり、健康に寄与している

通院回数の減少も

と考えられている。高齢者とペットの関係を研究する横浜国立大学の安藤孝敏教授は「身体的効果だけでなく、孤独を癒やす心理的効果やペットを通して他者と会話がはずむ社会的効果もある」と指摘する。米国などでは元気がない高齢者にペット飼育を勧める医療機関もある。海外の

ウーマンズ・インシアチブ・フォーラム開催 日本経済新聞社は「ウーマンズ・インシアチブ・フォーラム IN TOKYO」を開催します。日時は9月4日午後1時5時、場所は日経ホール(東京・大手町)。申し込みはhttp://www.women-in-synergy.jp/から。定員600人。参加無料。17日締め切り。問い合わせ03・515159・2208